

水道事業の広域化に関する市民説明会 概要 【武石公民館】

1 開催概要

開催日時	令和6年12月6日(金) 19:00~20:40
開催場所	武石公民館 コミュニティホール
参加者	25名
報道関係	1社

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	水源	<p>武石地域にとって、下流の方で検討されている広域化で、どのような影響があるかが一番興味深い。</p> <p>上田市から、坂城町、千曲市、長野市という流れに、上小地域も後で合流することもあるように書かれているが、水源を抱えている地域の住民からすると、企業団に水源が押さえられ、将来好きにできなくなるのではという不安がある。</p>	<p>千曲川や内村川、神川など、川から取水する河川の表流水が約8割、残り2割が湧水や地下水等で、山間地や地域に密着した水源である。</p> <p>湧水水源等は、量的にも限りがあり、地域の皆様に提供するための大事な水源であるため、引き続きしっかりと守っていくというのが前提であり、水源の取扱いは基本的には新たな企業団が管理することになるが、地域の声を伺いながら今後の協議に取り組んでいきたい。</p>
2	事業者関係	<p>広域化事業の中で、特に下流域では管路の2重化という大きな事業があるが、上田の業者でも工事を受注できるのか心配である。</p>	<p>広域化した場合、補助期間である令和16年度までは相当大きな事業費が投資されることになる。工事については、工事期間を複数年での発注や、発注規模を大きくするなどが考えられるが、まず地元の業者が受注できることが前提であり、管工事組合や建設業組合などの工事関係者と相談が必要と考えている。今後も、地域の担い手を守っていくことを大前提として考えていきたい。</p>

3	説明会全般	<p>・市民説明会は、広域化をやる前提の説明会なのか。説明会の資料も、広域化するのが一番いいといった作り方にしか思えない。</p> <p>・各地で説明会が開催されると思うが、説明会で出た意見は、上田長野地域水道事業広域化協議会でどの程度反映されるか。</p>	<p>・これまで検討してきた内容をお知らせするための説明会であり、皆様のご意見等を聞き、判断することになるため、方向性は決まっていない。単独では対応困難な課題に対して、広域化を図ることが一つの有効な手段と捉え説明に取り組んでいる。</p> <p>・頂いたご意見等を参考に、まず上田市として広域化をどうするか判断していくことになるが、広域化協議会へも意見の内容を伝えながら協議をしていきたい。</p>
4	人材育成	<p>人が少なくなり、職員が高齢化しているというが、なぜ若い職員を育てないのか。</p>	<p>人口減少社会の中で、今のサービス水準を維持していくことは難しいが、それを補完するために、例えば民間の力を借りたとしても、管理監督して指示ができる知識を持った職員を少しでも育て、水道事業を守っていきたいと考えている。</p> <p>また、広域化した場合、企業団採用の職員は、企業団以外に異動することがないため、専門人材が育成できることが可能であり、組織が守れると考えている。</p>
5	水道料金	<p>一月で 600 円ぐらいの値上がが市民にとって負担かどうかは誰が判断したのか。広域化に対して市民が欲しい情報は、広域化したら確かにすごい安くなります。でも、広域化しなかった時は、負担はこれだけ上がりますという情報で、そういうものを提示していただきたい。</p>	<p>皆様に提供するサービスは、日常の安全・安心な水をお届けするのも当然ですが、水道料金というの大きなサービスだと捉えており、料金をいかに抑制するか考えながら、日々の業務に取り組んでいる。</p> <p>広域化協議会で実施した財政シミュレーションにおいて、上田市の約 50 年後の水道料金が、1 ヶ月の使用量を 20 m³とした場合、単独経営では一ヶ月約 7,900 円で、広域化した場合は約 7,300 円となると試算され、単独経営の場合は、広域化した場合よりも 600 円ほど高くなる。</p>

6	補助金・出資金	<p>自分たちの子供、孫の時代のことを考えて進めていかなければいけない。水道経営は独立採算制で使用料収入がメインであるため、今の小さな器の中でやってくのではなく、大きな器の中で考えていかないとかなり厳しいと思う。</p> <p>地域全体の財政等における主な効果の中に、「補助金・出資金収入の増」とあるが、出資金は市の一般会計の繰入金を見込んでいるのか。</p>	<p>事業費の 1/3 は国の補助金があり、市の一般会計からも事業費の 1/3 を上限に出資が可能となっている。</p> <p>広域化に取り組んだ場合は、国と上田市などの一般会計から財政支援として 2/3 の支援が受けられるため、水道料金の抑制につながると試算された。</p>
7	施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・水道事業は上から下までつながって初めて機能する。完成して、水が通って初めて機能するのではないか。管路の 2 重化が完成するのは何年後なのか。 ・染屋浄水場の水を塩田地域へ送れるのは 20 年先ということは、事業は最低限 20 年かかる。元ゼネコン職員の話では、国道 18 線に沿った 2 重化事業は 10 年程度では終わらないと聞いている。今 500 億円と言っているが、これも実際、倍の費用がかかるのではとも言われている。そのような指摘がある中で、本当に 10 年間で工事が終わるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上田から長野までの送水管の 2 重化については、合計で 3 5 0 億円程度の事業を計上しているが、補助期間で完了することを前提として考えている。 ・2 重化のルートは、現地確認を行い、敷設可能なルートを確認している。工法や発注方法等については、地元業者とも相談して行うことになるが、この期間内に完了させることを前提としている。 <p>また、染屋浄水場の耐震化・更新は 54 億円を計上しているが、これは令和 16 年までの補助対象事業費で、それ以降も単独事業として工事は継続して行う。</p>
8	施設整備／災害対策	<p>全体で 500 億円のうち二重化のために 350 億円を使う計画になっているが、どういう意味があるのか分からない。災害対策はいろいろあるが、武石地域も基幹管路が二重化されているわけではない。</p>	<p>共通の理念として、上田長野間全体で災害に強く効率的で持続可能な水道を目指そうということを考えている。管路二重化などの下流域で計画する事業のほか、上田市内においても、染屋浄水場の整備をはじめ、他の地域に比べ遅れている施設や管路の耐震化・更新などに相当の事業費を計画しており、これらの事業を含め上田長野間の地域全体で負担することで考えている。</p>

9	下水道分離	現在、上下水道事業として一体でやっているのですが、広域化により、下水道については今までより効率が落ちるのではないか。広域化のスケールメリットが全然つかめてこない。	下水道事業を分離した場合、やはり効率が落ちるといのはご指摘のとおりである。この効率の低下をいかに小さくするか考えていく必要がある、上下水道業務の共通業務については企業団が一元的に受託することができないかなど検討しているところである。
---	-------	---	--